「災害復興を支援と自由な発想で新しい分野へ挑戦」（株式会社文尚堂）

令和7年11月

法人の概要

【所在地】熊本県人吉市九日町
【設立】明治28(1895)年 【農業開始時期】 令和3年1月
【経営面積】1ha
【営農作物】 かんしょ（紅はるか）
【参入に至った経緯・動機】

事務用品の販売事業を行う（株）文尚堂は、令和2年7月豪雨により球磨川が氾濫し、広範囲にわたる洪水被害が発生した際、本社オフィスも浸水し、甚大な被害を受けた。

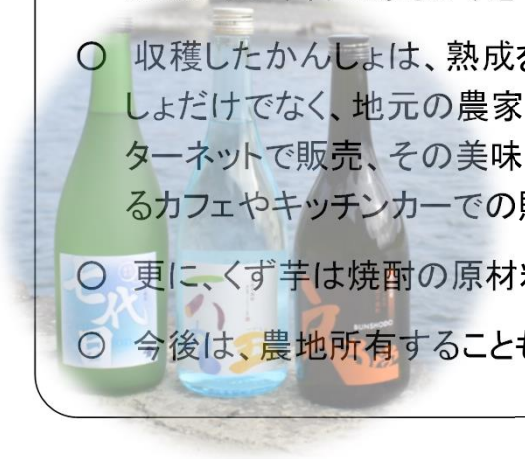
復興を進める中、以前から気になっていた、地元人吉の遊休農地に着目。その農地を活用して、農作物の生産、加工、販売を行い、このための従業員を地元から雇用し、地域の雇用促進を図ると共に、社員や、その家族が収穫を楽しむ、福利厚生の一環になればとの思いもあり、農業に参入した。

取組のポイント

○ 現在耕作している農地は農業委員会に相談し、借入したもの。大きく3地区に分散していて作業効率は悪いものの、一方で病害虫や災害などのリスクを分散できることがメリットとなっている。

○ 当初は農業の知識がほとんどなく、農機具メーカー等に指導、助言を求めながら、手探りの状態でスタートした。現在、かんしょ栽培を開始してから5年目であるが、思うように単収が上がらないことから、栽培技術向上が課題である。

○ 収穫したかんしょは、熟成を行うことで甘みが増すことや年間を通して安定的な販売を行うため、貯蔵庫2棟を整備。自社で生産したかんしょだけでなく、地元の農家に生産委託したかんしょも同様に、一ヶ月以上、貯蔵庫で保管した後、「ぶんぶんフード」というブランド名でインターネットで販売、その美味しさから高評価を得ている。また、地元の食材とコラボしてアイスクリームやマフィンなどに加工し、自社が経営するカフェやキッチンカーでの販売を行っている。

○ 更に、くず芋は焼酎の原材料として地元の酒造会社に委託加工を依頼し、「文尚堂」等の銘柄で親類の酒店での販売も行っている。

○ 今後は、農地所有することも視野に入れ、栽培や加工等に四苦八苦しながらも「遊び心」を持って農業に取り組まれている。